

オカラボ リサーチ・ルーブリック ※愛媛大学教育学研究科リサーチ・ルーブリック（2014版）を参考に作成しました

下の表は、あなたがご自身の修士論文を自ら改善するのに役立てると同時に、指導教員による指導をより効果的にするために作られたルーブリックです。Aを最も質の高い水準、以下、B、C、Dと段階が設定されています。これによって、より質の高い研究に到達するために必要なことが段階として分かります。指導教員との目標や進捗の確認、そしてご自身で研究を進める過程において、定期的にご活用ください。なお、オカラボにおいては、すべての項目がB以上をクリアすることを修士学位論文の提出可能水準としています。

領域	評価項目	A	B	C	D
研究課題の設定	実際場面および学術への貢献	自分の研究テーマが実際場面や学術における課題の解決や理解Aの深化にどのように貢献できるか文章で説明できる	自分の研究テーマが実際場面や学術における課題の解決や理解Bの深化にどのように貢献できるか文章でおおよそ説明できる	自分の研究テーマが実際場面や学術における課題の解決や理解Cの深化にどのように貢献できるか認識している	自分の研究テーマが実際場面や学術における課題の解決や理解Dの深化にどのように貢献できるかよくわかっていない
	発展可能性	より重要な研究へと発展することが確実なテーマであるA	より重要な研究へと発展することが可能なテーマであるB	より重要な研究へと発展する可能性の有無についてははっきりCしない	より重要な研究への発展する可能性の見込めないテーマであるD
	オリジナリティ	関連する先行研究を網羅した上で、当該論文のテーマがオリジナルであることが明確に示されているA	関連する先行研究に当該論文と類似するテーマは多少あるが、B独自性を有すると認められる	すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるが、独自性を有するCとも言える	すでに同様のテーマの先行研究が存在しており、独自性は認められないD
研究活動の妥当性	計画・準備	指導教員との協議を通して計画書を作成し、研究レビュー、Aデータ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するか明確である	指導教員との協議を通して計画書を作成し、研究レビュー、Bデータ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかほぼ明確である	指導教員との協議を通して計画書を作成したが、研究レCビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかやや不明確である	いつ何をどこまで進めるか計画が立てられていないD
	研究倫理	研究に関わる倫理上の問題について、十分に考慮し、必要な対応を済ませた上で、研究活動を行っているA	研究に関わる倫理上の問題について、十分な考慮と必要な対応Bを行いつつ、研究活動を行っている	研究に関わる倫理上の問題への考慮・対応が十分とはいえないC	研究に関わる倫理上の問題について検討していないD
	データ・資料の管理保存	論文に使われたデータや独自資料は指導教員等の管理する公的な場所に適切に保存され、論文提出後の照会や検証に耐えられるようになっているA	データや独自資料は保存されており、照会や検証にも対応可能Bである	適切に保存できていないデータや独自資料が一部存在するC	データや独自資料は保存できておらず、どこにあるか把握できていないD
研究の内容とその記述	目的の明示	研究の目的が明確に述べられており、その目的を達成するために当該研究で何をどう進めるかのプロセスも明確に言語化されているA	研究の目的が明確に述べられ、その目的を達成するためのプロセスがおおよそ言語化できているB	研究の目的のようなものはあるが、漠然としていたり大きすぎたりしているC	漠然とした考えのみがいくつか頭の中にあり、うまく言語化できないD
	研究方法の妥当性	研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を選択しており、その方法が妥当と考えられる理由を文章で説明できているA	研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を採用しているB	研究目的を達成するのにふさわしい研究方法であるかどうか判断できるほど調べられていないC	研究目的を達成するための研究方法が思いつかないD
	記述法・ルール	論文の本文はアカデミック・ライティングの原則に従って書かれており、表記ルールは日本心理学会「執筆・投稿の手引き」（あるいは本学規則）に従って統一されているA	表記ルールは日本心理学会「執筆・投稿の手引き」（あるいは本学規則）に従って統一されているが、本文がアカデミック・ライティングの原則に従っていないとはいえないB	主語と述語は一致し、事実と意見を区別して記述することができていないが、表記ルールが日本心理学会「執筆・投稿の手引き」（あるいは本学規則）に従っていないC	主語と述語が一致していない文章や事実と意見を区別できていない文章が散在しているD
	データ・資料の量	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分な量のデータ・資料を収集しているA	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのにほぼ十分な量のデータ・資料を収集しているB	データ・資料を収集しているが、選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分な量とはいえないC	データが収集できていないD
	分析方法	研究目的を達成するために選択した研究方法にふさわしい分析方法が採用されており、当該分野における一定の水準を満たしているA	研究目的を達成するために選択した研究方法に最適とはいえないが、目的を達成することができる分析方法を採用しているB	採用した分析方法で目的を達成できるということを文章で説明できないC	分析方法についてのアイデアがないD
	結果の表現	結果を適切に表現するために、適切な図表等が作成・配置され、そのエビデンスの意味するところを記述的できいるA	結果を適切に表現するために、適切な図表等が作成・配置されているが、そのエビデンスの意味するところが説明されていないB	結果を表現するために、適切な図表等が作成・配置されているが、不要な図表も配置されているC	結果を表現するために必要な図表等がほとんど作成されていないD
	結果の解釈とまとめ	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。予想や仮説に一致しない結果も重要な結果として捉えているA	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。予想や仮説に一致しない結果は例外として処理しているB	目的を達成するために示す必要のある結果は認識できているが、結果を示したりその解釈を言語化したりすることができないC	目的を達成するために示す必要のある結果が認識できていないD
成果	成果の水準	当該分野における問題を解決する知見、あるいは新しい事象の発見について、得られたデータや参考資料に基づいて提供することができるA	当該分野において有意義な知見や発見を、得られたデータや参考資料に基づいて提供することができるB	得られた知見が当該分野において有意義なものといえるかどうか疑問が残るC	当該分野において有意義な知見が得られたとはいえないD
	成果の公表	学会での発表、または雑誌等への投稿によって、研究成果を公表しているA	学内の公聴会あるいは中間報告会で研究成果を十分に発表することができたB	学内の中間報告会で発表は行ったが、成果を十分に示すことはできていないC	研究成果を発表するための資料が作成できていない、あるいは研究成果が言語化できていないD
	実践への貢献	研究によって明らかとなった知見や成果物を現場等の実践者へ提供した。A	少し手を加えれば、研究によって明らかとなった知見や成果物を現場等の実践者に役立てられる。B	かなり手を加えないと、研究によって得られた成果を現場等の実践者に役立ててもらうことは難しいC	現場等の実践者に役立ててもらえるような成果は得られなかったD